

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	5年度は減益見込みとなっている	
住宅建設	前年を上回っている	前年並みとなっている	
輸出	前年を上回っている	前年を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、国内客の回復に加え、インバウンドの増加により免税売上が増加するなど、回復の動きがみられる。

スーパー販売は、一部に節約志向がみられるものの、値上げの影響もあり売上は前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、都市部や観光地の店舗を中心に、国内観光客やビジネス客のほか、インバウンドの増加もあり、売上が増加している。

ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられ、弱い動きとなっている。

家電販売は、夏物家電の動きが鈍いことなどから、横ばいの状況にある。

乗用車の新車登録届出台数は、供給面での制約の影響が和らぎ、前年を上回っている。

旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況にあるものの、国内旅行は回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- インバウンドが回復基調であるほか、国内顧客でも、外商のほか、ラグジュアリーブランドなど的高額商品が好調。
(百貨店、大企業)
- 節約志向が一部にみられるものの、プライベートブランド商品が好調なほか、値上げによるお客様単価の上昇により売上は増加している。
(スーパー、大企業)
- インバウンドの増加により繁華街や観光地の店舗が好調であることに加え、出勤制限がなくなりオフィス街の店舗も売上が伸びている。
(コンビニエンスストア、大企業)
- コロナの「5類」移行で外出機会が増加し、化粧品や日焼け止めなどのシーズン品が好調。インバウンドも右肩上がり
で回復し、売上が増加している。
(ドラッグストア、中小企業)
- 今年は足下にかけても気温がそこまで上がっておらず、エアコン販売が前年を下回った。そのほか、物価高に起因する消費の伸び悩みで主要商品はおしなべて苦戦している。
(家電量販店、大企業)
- 半導体不足の解消により生産が順調に回復しているほか、企業業績の回復に伴い法人向けが好調であったことなどから、売上台数は前年を上回っている。
(自動車販売店、中小企業)
- 国内旅行は高齢層の旅行も増えてきており、回復傾向が継続している。海外旅行は徐々に増えてきているものの、燃油高、物価高などから伸び悩んでいる。
(旅行代理店、中堅企業)
- コロナの「5類」移行で外出への抵抗感もなくなり、団体客の利用や遅い時間帯の利用も徐々に増えてきている。コロナ禍で短縮していた営業時間も戻り、売上はコロナ前に近づいている。
(飲食サービス、中堅企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

鉱工業指数（生産）で見ると、車載用電池を含む電気・情報通信機械などが堅調に推移しているものの、スマートフォンやパソコンの需要が低迷していることなどから、電子部品・デバイスなどが低調となっており、生産活動は一進一退の状況にある。

- 車載向けリチウムイオン電池は堅調であり、フル生産の状況が続いている。
(電気機械、大企業)
- 依然としてスマホやパソコン関係の需要は低迷しているものの、在庫の消化が一定進んできていることもあり、中国のスマホ市場を中心に前期と比較すれば若干改善、受注も回復傾向となった。
(電子部品・デバイス、大企業)
- 中国を中心とした海外需要の減少から、半導体製造や産業機器向け等の電子部品、家電製品等の民生機器向け部品の新規受注が鈍化している。
(電気機械、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいで推移しているものの、新規求人数は増加傾向にあり、完全失業率もおおむね前年を下回って推移していることから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- インバウンドの回復を見込み、新規出店を計画しているため、求人を増やしているが、賃金を上げてもなかなか人が集まらない。
(ドラッグストア、中小企業)
- 宿泊者数の急増により、フロントを中心に人手が不足しており、バック部門の人員を応援に充てるなどして補っている。人手不足を多少なりとも緩和すべく、自動チェックイン機の導入も進めている。
(宿泊、中堅企業)
- ドライバーの高齢化が進む中、定年退職者が増加しているため、採用活動を行っているものの、現場仕事が敬遠されているのか、応募が少ない。
(運輸、大企業)
- 半導体不足の影響による休業が続いたことにより、正社員が多数退職しており、その分の補充をしたいが、なかなか戻らず、人手不足が長期化している。
(輸送用機械、大企業)

- **設備投資「5年度は前年度を上回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年4～6月期
 - 製造業では、生産用機械、化学など、ほぼ全ての業種で前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設などが前年度を下回っているものの、運輸・郵便、金融・保険などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

➢ BCP 対策を含めた生産拠点の強化を実施。	(生産用機械、大企業)
➢ 駅周辺の開発事業を予定。また、昨年控えていた設備投資を実施見込み。	(運輸・郵便、大企業)

- **企業収益「5年度は減益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年4～6月期
 - 製造業では、パルプ・紙などが増益となるものの、化学、繊維などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、情報通信などが増益となるものの、卸売、運輸・郵便などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年並みとなっている」**
 - 新設住宅着工戸数でみると、貸家が増加しているものの、持家などが減少していることから、前年並みとなっている。

- **輸出「前年を下回っている」**
 - 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アジア向けの半導体等電子部品や半導体等製造装置などが減少していることから、前年を下回っている。なお、輸入も、前年を下回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年4～6月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、5年7～9月期は、全産業では「上昇」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等や府県などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、食料などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各府県の総括判断

	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
滋賀県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
兵庫県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
奈良県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。